

愛と美を求めて — C.B. デフォレスト先生の歩みを振り返る

藏 中 さ や か

第5代院長シャーロット・バージス・デフォレスト先生(1876-1973)の召天50周年となる2023年、神戸女学院創立150周年記念展示Ⅰ「C.B. デフォレスト展—愛と美を求めて—」(学校法人神戸女学院主催、会期5月23日-7月13日、於図書館本館)^①が開催された。本展示は、公益社団法人神戸女学院めぐみ会と、『C.B. デフォレストの生涯 美と愛の探求』(創元社 2003年)の著者である故竹中正夫先生の御令室竹中百合子氏の特別協力を得て実現した。関係各位に心より感謝を申し上げる。来場者数は1,400名を超え、三分の二以上が学外からお越しくださった方々であった。

神戸女学院中興の祖とも称されるデフォレスト先生の人生は、1905年1月のご着任以来、本学院とともにあった。今回の展示は、リベラルアーツ教育を推進し女性の高等教育機関の確立を目指された先生の歩みを「愛—人生—」と「美—教育—」に分ち構成した。以下、展示にそって振り返る。

前半には人生の足跡をたどる資料を配し、後半にはキリスト教主義に基づく教育や時代に応じた教育改革等、当時の教育内容を示す資料を集め、中央のガラスケース内には才知あふれる先生の姿を表す展示品として30枚のわらべ歌のカード、10cm×12cmのカードに丹念に描かれた54枚の蜘蛛の図、サインの残る楽譜等を揃えた。めぐみ会所蔵の、西洋人形と先生手縫いの衣装、蒔絵の台座付羽子板、スミス・カレッジ卒業時の大学式服は、現物資料として特に多くの来場者を惹き付けた。また、2009年にめぐみ会資料室で発見後、学院に移管された次の2点を初公開した。*Travel Calendar 1925* は、前半が1925年11月

15日-12月2日までの賜暇による帰米の船旅の記録で、ソール先生、グレース・ストウ先生、メアリー・ストウ先生、ハケット財務主任等が毎日交代で記し、後日、その記載者名をデフォレスト先生が記入したものである。後半は覚書で、読書記録や書誌情報、自作の詩の記録(1927年11月6日の日付記載)、出版社の住所等が記される。ノート(覚書)も同様に、1949年以降に記された読書等の記録で、先生と書籍との関わりを伝える貴重な資料である。

先生は教育者であるだけでなく研究者でもあられた。Some Types of Japanese Poetry という日本の詩歌の研究でミス・カレッジから1907年に M. A. の学位を、さらに1921年には L.H.D. の学位(名誉博士号)を授与されている。挿絵・表紙の印刷用銅版とともに展示した *Poems down the years* は、1960年に同窓会(現・めぐみ会)が出版した詩集で自筆書込みが残る。また *The prancing pony : nursery rhymes from Japan/adapted into English verse for children* は、1967年 John Weatherhill 社から出版された日本のわらべ歌を紹介する詩集である。^②

先生のまなざしは本学院の歴史にも注がれた。1919年に編集された *ELIZA TALCOTT FOUNDER OF KOBE COLLEGE* は、創立者タルカット先生の召天後、その時点で収集可能であつた資料をまとめた記録集である。また英文で記された神戸女学院75年史である *The History of Kobe College* は、先生が帰米中に資料を集め戦後の帰院時に執筆したタイプ印刷製本の私家版で、1950年、シカゴの KCC が出版した。歴史的資料に基づくこの二書は学院史の根幹資料である。

映像コーナーでは、レコード(1935年6月15日制作)のA面「或る日の感想」^④とB面の *Bible Reading*、さらに1960年の創立85周年の同窓生たちの集いの際のご様子等、先生のお声と当時の写真とを編集した動画を上映した。地上の命あるこの世を学校に見立て、生きている限り、人は誰でも神様が与えたまう奨学金を受けているというお話は、生きることと学びとを神の支えとともに説くもので、その内容は今も色褪せることがない。

先生の周りには常に人々が集まったという。未来を創り出す心豊かな女性を

社会に送り出し続けた先生は、「今」だけでなく「あとの人のため」の神戸女学院を考え続けた方でもあった。当時と変わらぬ精神に支えられた神戸女学院を次代に繋いでいくことが、デフォレスト先生の想いに応えることとなる。近づく150周年を前に、今、改めてそのように感じる。

註

- ① 7月8日には、2015年度から7年間にわたってデフォレスト先生の手簡に関する学内共同研究を続けられた津上智実本学名誉教授を講師にお迎えし、「デフォレスト手簡に学ぶ」と題する講演会も行われた。
- ② 本書は1968年4月、シカゴ・トリビューン社主催の児童図書祭で優秀作品として賞を受けている。
- ③ 1920年に図書館に寄贈された。その資料的価値は渡辺久雄「デフォレスト先生と史料集」（『学院史料』4 1986年）に詳しい。展示では、中扉の自筆部分と本学創立期の様子を演劇に仕立てた「タルカット女史の一代」の脚本部分とを公開した。
- ④ 創立150周年に向けた学院のメッセージ「Bridging Generations」が引用する橋を作るおじいさんの話はこの講話による。

（大学図書館（史料室）長）